



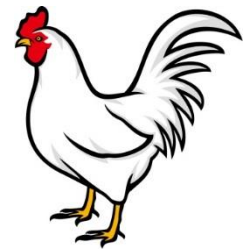
ふくろう通信

第44号
2018年 1月 1日
自然博物館 ねいの里



新しい年を迎えて

自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏



あけましておめでとうございます。

今年は酉年ですが、ここねいの里では、昨年あたりからイノシシが干支を先取りしたように、大暴れしています。

この傾向は県下全域で確認されており、県内の田畑では、従来から農作物被害をもたらしていたサルやカラス以上に、イノシシによる被害が急増しています。

ねいの里では、水辺の生態園での地面の掘り起しが頻発しているほか、子育てサークルの母子と一緒に育てた収穫直前のイネが全滅させられるなど、耕作意欲を削がれるような被害を受けています。

また、トンボの発生地である「ハッチョウトンボの遊園地」でも大規模な掘り起こしが見られ、今後、トンボのヤゴの発生に何らかの影響があるのではないかと懸念しています。

実際、イノシシが原因かどうかはわかりませんが、ここ数年ハッチョウトンボの発生が非常に少なくなってきました。

私が県庁で鳥獣保護行政を担当していた 20 年ほど前までは、富山県ではイノシシの生息は確認されていませんでした。その頃は、脚が短いイノシシは多雪地域には生息できない、というのが定説でしたが、過去には江戸から明治時代にかけて多く生息していた記録があり、狩猟等の影響で大正から昭和にかけては生息していなかったものと思われま

す。ところが、平成に入ると生息数が急増し、平成 2 年には 2 頭であった捕獲数が、昨年度には約 2,600 頭と激増しています。特にイノシシは 1 回に 4～5 頭の子どもを産むため、急激に数を増やします。

シカについても 100 頭弱が捕獲され、今後増加することが懸念されます。

このような背景から、県ではイノシシとシカの捕獲事業に本格的に取り組むことになりました。

ねいの里でも県の事業に協力し、激増する大型哺乳類による農作物被害を軽減するための手法や、効果的な捕獲方法を確立させるための手法、さらには若手のハンターの育成という事業に取り組んでいます。

全国的にも急増しているこれらの大型ほ乳類の生息数を抑えることができなくなると、自然生態系に大規模な影響を及ぼし、ねいの里などの里山の自然環境は大きく変わってしまうことになります。

これら被害の現状を理解していただき、自分たちの問題として認識していただくため、ねいの里行事「冬の生きもの観察と動物の体を調べる」という行事の中で、イノシシやシカの体の構造や生態、被害状況などの解説を行い、これらの肉を使ったジビエ料理の試食を提供しています。

ぜひ、この行事にも参加し、イノシシやシカの被害の現状について理解していただければ幸いです。



(被害を受けた水田)



(掘り起こされた地面)

「吉住窯」で炭焼きに挑戦！

昨年12月に「吉住窯」で炭焼きに挑戦しました。今回は20回目の炭焼きになります。

過去何年かの炭焼きは、焚けども焚けども窯の温度が上がらず、生焼けの状態です。前回は最初は温度が上がらず失敗。その後、炭焼きをしておられるT氏の助言を得て行き、何とか温度が上がってうまくいったかを見えました。しかし、炭を取り出そうと窯を開けた途端に、消えずに残っていた火種から火が出て、見る間に窯の中が火事になり炭が燃えてしまうという失敗でした。

今年こそは！！との思いで行った炭焼きです。

12月1日～2日 炭焼き小屋、窯内部の清掃をする。

12月3日 炭材の詰め込み。10月から準備したコナラの炭材を190本入れました。

12月7日 焚口作り。燃料用の薪も窯の横に積み上げ、炭焼きの準備は整いました。



上げ木：炭材と天井との隙間に細い木を詰める。

炭材：90cmに切り揃えたコナラをぎっしりと詰める。



12月9日 午前10時に窯焚きを開始。

煙道から出る煙の温度が80～82℃になるまで焚き続けます。同時に、一番下に通気口を残して、焚口の半分ほどをレンガと目土で徐々に塞いでいきます。今回は順調に温度が上がり、午後5時前に80℃を超えました。いつ焚口を塞ぐかが、気がかりなところです。

午後9時、頃は良しと判断し、焚口を塞ぎました。火が燃えている所に練った目土を入れながらレンガを積んでいくので、熱いのなの、手を火傷しそうになりながらの作業です。

この後窯の中では、加熱された木の成分のセルロースやリグニンが熱分解して炭になる炭化反応が進みます。この炭化反応が持続するように通気口や排煙口の大きさを調節しながら、温度と煙の色の監視を続けるのですが、経験不足の悲しさ、どのように調節したらいいのかよく分からないのです。

12月10日 午前9時、温度が70℃まで下がっている！

原因が分かりません。そのまま様子を見ることにします。

12月11日 午前9時、さらに温度が下がり66℃に！

今回も失敗か？と思いつつ、通気口を倍くらいの大きさに広げると…温度が上がり始めたっ！！炭化反応が続いており、ほっとした瞬間でした。通気口を小さくし過ぎていたようです。

12月12日 午前9時、温度は136℃まで上がりました。

覗き窓を開けて窯の中を見ると、うまく炭化が進んでいるようです。どの時点で炭焼きを終了し窯を密閉するかを考え始めます。

煙道から出る煙の色が薄くなり、温度が160℃になったところで精錬に入ることにしました。通気口をいっぱいに開けると徐々に温度が上がり始め、炭化した炭材から出るガスが青白くゆらゆらと燃えだしました。1時間後、温度が206℃になったところで炭焼きを終了することにし、窯を密閉しました。窯を焚き始めてから77時間、ようやく今回の炭焼きが終了しました。

炭の出来栄はどうか？窯を開けるのが楽しみです。



(覗き窓から内部を見たところ。温度が上がって炭化したと思われる炭材が赤くかがやいています。)

冬の遊び

野澤 和子

キーンと冷えた冬の朝は寝床を離れたくありませんね。ブルツと震える寒い一日のはじまりですが、思い切って外に出てみましょう。

雪が積もっていれば、「スノーシュー」や「かんじき」を使って、普段は歩けないところを歩くのがお勧めです。そこでは、植物や昆虫の冬越し（春を迎える準備）を見たり、足跡や糞などの痕跡から住んでいる動物を想像したり、冬の里山探検をすることができます。

ところで富山の冬の遊びには雪に関するものが多いです。たとえば「スキー」や「ソリ」、「雪合戦」や「雪だるま」、「かまくら」などですが、身近な遊びで皆さんは何が一番好きですか？

私のお気に入りには、遊びではありませんが「雪のレストラン」です。雪を固めて作ったテーブルで、温かな食事や飲み物を気の置けない友人たちと囲むと、寒さなんて忘れてしまいます。雪国だからこそ体験できることです。

戸外の遊びで気を付けることは、汗をかくと下着が濡れ体を冷やすことです。着替えや飲み物などを忘れないようにしましょう。

今年の冬は雪の中での楽しみを探しながら、自然を満喫しましょう。



2016年(第15回)アサギマダラのマーキング調査結果

富山アサギマダラ調査グループ

「何かがおかしい」と言われた2016年でしたが、それはアサギマダラにも当てはまり、出現時期が今までと違っているよう（遅く短かった）でした。それでも770頭にマーキングすることができ、そのうち県外で再捕獲されたのは14頭ありました。

マーキング実績		県外で再捕獲されたもの	
場所	頭数	頭数	再捕獲場所
僧ヶ岳	377	9	高知県（香美市、室戸市、幅多郡）、愛媛県（宇和島市、八幡浜市）、静岡県菊川市、京都市（西京区、左京区）、石川県白山市
有峰	239	4	京都市右京区、徳島県阿南市、高知県香美市
大平山（魚津市）	90	0	
その他	64	1	岡山県苫田郡鏡野町

活動のふりかえり

「クリスマスリース作り」 平成28年12月4日（日）



今回は事前に一部の人に輪っか作りも体験してもらいました。蔓植物の観察を兼ねて蔓を採集し輪っか作り、腕が痛くなった人も。

自分で作ったお気に入りの輪っかに、木の実や松ぼっくりを飾りつけ、リースの出来上がり。クリスマスの玄関を彩ることでしょう。



（輪っかを作っています）

「正月飾りと干支づくり」 平成28年12月18日（日）



今年の干支は西、ニワトリをイメージした置物です。材料や使い方が面白いですね。

講師の方の想像力、発想にはいつもながら驚かされます。

しめ飾りは神様が宿る場所を表わす注連縄を簡略化して縁起物などを飾り付けたもの。どんな神様に宿っていただくのでしょうか？



ねいの里 これからの行事案内

● 1月 22日 (日) 「ねいの里生き物調査：足跡と冬芽の観察」

9:30 ~ 12:00 集合場所：ねいの里
定員：ジュニアナチュラリストを主に20名
カンジキで園内を散策し、植物の冬芽や動物の足跡などの観察をします。その後、囲炉裏のたき火を囲んでゼンザイを作ります。



● 1月 29日 (日) 「自然塾の会：親子で道草・冬の里山で遊ぼう」

9:00 ~ 12:00 集合場所：ねいの里
定員：18組 (すでに定員に達しました。)
親子でネイチャーゲームを楽しみながら、
冬の里山の自然にふれあいます。



1月 29日 (日) (自然塾の会運営委員会)

13:00 ~ 14:00 場所：ねいの里レクチャールーム
当初の計画では、1月29日に自然塾の会のカンジキハイクを行う予定でしたが、諸般の事情により上記の行事に変更になりました。自然塾の会運営委員会は、予定通り13時より行います。自然塾会員の皆さんには、上記行事のサポートをしていただけるとありがたいです。

● 2月 11日 (土) 「冬の生き物観察と動物の体を調べる」

9:30 ~ 12:00 集合場所：ねいの里
定員 ジビエ料理試食：30食限定 要予約 (1食200円)
骨格標本作りの体験：10名
ニホンジカの解体をとおして、野生動物の生態を学びます。
希望者の方はカンジキハイクをして動物の足跡などの観察もできます。



● 3月 19日 (日) 「ねいの里の春見つけ」

9:30 ~ 12:00 集合場所：ねいの里
園内を散策しながら早春の息吹を感じさせる動植物の観察をします。
3月 19日 (日) (自然塾の会総会)
「ねいの里の春見つけ」終了後、自然塾の会の総会を行います。



〈行事への参加希望の方は、ねいの里までお申し込み下さい。〉

■ 企画展

11月 25日 ~ 3月 31日 ネイチャーフォト展

■ お願い ■

○ 「ふくろう通信作成への協力をお願い」

日頃思っていること、人に話したいことを「ふくろう通信」に載せてみませんか。
皆さんからの投稿をお待ちしています。

○ 会員の駐車場利用について

会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。



発行 富山県自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>